まえがき …… 1

序 章　基礎データの整備

1．元データ …… 9

2．語のコード化 …… 11

3．その他の処理 …… 16

第1章　和歌語彙と散文語彙の性格

1．はじめに …… 21

2．和歌語彙の性格 …… 22

3．散文語彙の性格 …… 30

4．和歌語彙と散文語彙との比較Ⅰ …… 34

5．和歌語彙と散文語彙との比較Ⅱ …… 44

6．まとめ …… 48

第2章　仮名散文作品の語彙の性格

1．これまでの研究 …… 57

2．本書において取り上げる作品 …… 58

3．『大鏡』と『源氏物語』の位置づけ …… 60

4．『伊勢物語』の位置づけ …… 64
5．日記文学の位置づけ …… 65
6．『枕草子』の位置づけ …… 70
7．仮名散文作品の使用語彙の性格 …… 73

第３章　歌物語の語彙
1．はじめに …… 83
2．文学作品としての「歌物語」…… 84
3．「歌物語」３作品間の全体的比較 …… 87
4．「歌物語」３作品の散文語彙と和歌語彙の比較 …… 91
5．「歌物語」３作品と平安朝仮名散文作品との比較 …… 95
6．使用語彙の性格の違いの要因 …… 101
7．まとめ …… 103

第４章　八代集における和歌語彙の変容を検証
—「けしき」を用いて
1．八代集中の「けしき」…… 109
2．漢詩文中の「けしき」…… 112
3．平安朝仮名散文中の「けしき」…… 115
4．歌合中の「けしき」…… 123
5．私家集中の「けしき」…… 127
6．和歌史上の『後拾遺集』…… 138

第５章　歌風変移の契機としての『拾遺集』
１．『拾遺集』の「心」「姿」…… 150
２．『拾遺集』の「詞」…… 154
３．『拾遺集』における初出語句の性格 …… 160
４．まとめ …… 166

あとがき …… 169